



## 東日本大震災兵庫県ボランティア先遣隊に参加して その1

I H I 播磨病院 整形外科 西川 梅雄

本年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震で被災された方々に、衷心よりお見舞い申し上げますと共に、一刻も早い復興をお祈りいたします。

私は、3月18日～20日の3日間、「兵庫県ボランティア先遣隊」に参加する機会を得ましたので報告します。

3月17日（木）兵庫県医師会からの要請があり、翌日夕から「兵庫県ボランティア先遣隊」として仙台市内の避難所へ行くようにとのこと。

3月18日（金）17時 JR 神戸駅前を県行政特別仕立ての、救援物資をつんだバス4台で出発。約80名が参加しました。

参加者の内訳は、県医師会から私を含め6名、井戸知事を含む県職員19名、県看護協会8名、社会福祉協議会職員15名などです。行き先は仙台市内の予定でしたが、結局松島町（あの日本三景で有名な松島）の避難所でした。バスは阪神高速から名神、

北陸自動車道、新潟から磐越自動車道を通り、東北自動車道に入りました。神戸から松島まで片道約920キロメートルを休憩を入れて15時間かかりました。

3月19日（土）朝9時頃、松島町温水プール美遊（みゆう）に到着。救援物資の積み替えを行い、3か所の避難所へ別れて行きました。

私と県医師会理事大森先生が担当した所は、松島町手樽（てたる）地区の避難所で約100名が避難されて



写真① 手樽地域交流センター：旧松島第三小学校を利用している。向って左の給水車は三重県四日市市の車両。していました。

避難所は廃校になった小学校を利用した「地域交流センター」（写真①）です。

近くで「あし」にけがをしている人がいるというので、私は現地の保健師が運転する車で松島湾に突き出た名籠(なごめ)地区へ往診しました。患者さんはすでに近くの病院を受診し、副木固定をされていました。念のため診察しましたが「肉離れ」のようでした。

避難所では1名極度の貧血の女性がいましたが、幸い他に重症者はなく、高血圧や狭心症など慢性疾患で薬切れの人、通院していた医療機関自体が消滅した?人もあるようでした。

午後、時間に余裕が出たので、仙石線陸前富山駅の方を視察に行きました。道路にはひびが無数に入り、水田には塩水が溜まっていた。駅周辺の家は全て1階部分が浸水して泥だらけ、海岸では防波堤が壊れて線路の上ののっていました(写真②)。

現地の悲惨さは、直接見るのとテレビで見るのは大違いでした。被害状況はこの辺はまだ「まし」で隣の東松島市のほうがはるかに深刻なようでした。現地滞在中は体感する余震などなく、二次災害に遭うことなく活動を終えました。



写真② 仙石線陸前富山駅付近:津波により破壊された堤防が、レールの上に乗上げていた。駅のプラットフォームも一部破壊されていた。向って右に見える海は松島湾。

3月19日17時松島町を後にしました。帰りは行きと逆のコースでした。東北自動車道国見(福島県)のサービスエリアで休憩中、19時頃少し強い揺れを感じました。後で分かりましたが北関東震源の、震度4の地震でした。

3月20日(日)朝8時JR神戸駅前に無事到着しました。往復とも夜行バス(いわゆる0泊3日)がちょっときつかったのと、現地での食料、水など全て持参なので荷物が少し重かったです。なお既に報道されていますが、井戸知事によると兵庫県は1万人規模で被災者の受け入れをしようです。知事は現地で県庁や3か所全ての避難所を周り、精力的に活動され、夜行バスで行きも帰りも行動を私たちと共にされたのにちょっと感激しました(写真③)。

以上が今回経験させて頂いた主な活動内容です。

手樽地区の避難所の状況と、その付近の被害状況について、今後2回に分けて少し詳しく報告したいと思います。(続く)



写真③ 帰神し神戸クリスタルタワーロビー内で解散式の後、井戸知事と。向って左から常深(つねみ)先生、私、井戸知事、大森先生。

TTAK新聞のバックナンバーは

播磨病院ホームページ <http://www.harima-hp.jp> からご覧になれます。